

茨城県内の急性脳炎（脳症を含む）におけるインフルエンザ脳症について

茨城県感染症情報センター（2025年1月28日時点）

急性脳炎（脳症を含む）におけるインフルエンザ脳症とは

急性脳炎は、感染症法に基づく感染症発生動向調査における5類感染症全数把握疾患であり、意識障害を伴って死亡した者、または意識障害を伴って24時間以上入院したもののうち、①38℃以上の発熱、②何らかの中枢神経症状、③先行感染症状の少なくとも一つ以上の症状を呈した場合に診断・届出される。

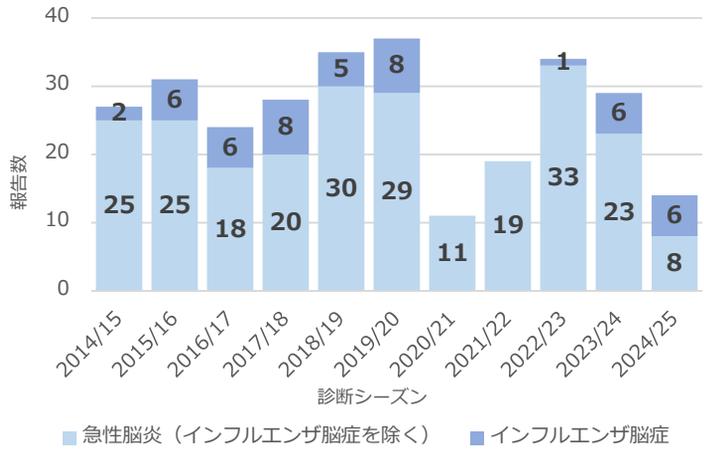
本まとめにおける「インフルエンザ脳症」は、急性脳炎の届出のうち、病型の病原体としてインフルエンザウイルスの記載があった症例（以下、インフルエンザ脳症）とした。また、各シーズンは、診断週がX年第36週からX+1年35週までを「X/X+1シーズン」とした。

茨城県内におけるインフルエンザ脳症報告状況

急性脳炎及びインフルエンザ脳症の報告状況

- 新型コロナウイルス感染症流行の影響により、茨城県内の急性脳炎報告数は、2020/21シーズンに激減したが、再度増加に転じ、2024/25シーズンは、2025年第3週時点で14例と、前年同時期（17例）と比較すると少なかった
- 2025年第3週時点における2024/25シーズンのインフルエンザ脳症は6例であり、急性脳炎症例全体に占める割合が42.9%と過去10シーズンのなかで最も高かった
- 2014/15シーズンから2024/25シーズン※に報告のあったインフルエンザ脳症48例について、性別は男性（31例,65%）、年代は10歳未満（29例,60%）、インフルエンザウイルス型別ではA型（32例,67%）が多かった

各シーズンにおける急性脳炎報告状況
(2025年第3週時点,n=48)



インフルエンザ定点あたり報告数とインフルエンザ脳症

- シーズン毎のインフルエンザ脳症報告数とインフルエンザ定点あたり報告数の比は、2024/2025シーズン※で0.023と、2022/23シーズン以降、年々増加傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症流行開始前のシーズンと比較すると大きい傾向はみられなかった

各シーズンにおけるインフルエンザ脳症累積報告数及びインフルエンザ定点あたり累積報告数と比

	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25
インフルエンザ脳症累積報告数(X)	2	6	6	8	5	8	0	0	1	6	6
インフルエンザ定点あたり累積報告数(Y)	234.5	279.3	298.5	384.5	326.9	176.3	0.2	0.2	104.0	532.3	256.9
比(X/Y)	0.008	0.021	0.020	0.020	0.015	0.045	0.00	0.00	0.009	0.011	0.023

(※2024/25シーズン報告数は2025年第3週時点)